

コロナ新時代を担う若い世代への期待



巻頭言

田中敏宏*

Expectations for the younger generation
bearing the new era of COVID-19

Key Words : blended learning, academic education

2020年1月ごろから国内においても大きな影響の出始めた新型コロナウイルス感染の世界的規模の緊急事態はいまだ収まる気配もなく、国内でも再び感染が増える可能性を秘めたまま、新たな生活様式が始まっています。大阪大学が最初に公的な影響を受けたのは2月3日に上海にて実施予定であった「海外在住私費留学生対象の入試」の延期でした。2月に入り、いわゆる阪大入試への対応、3月25日実施予定の2019年度卒業式の開催規模の大幅縮小、4月2日の2020年度入学式の見送り、4月9日から授業開始をしたもののメディア授業（オンライン授業）の開始、その直後の全国の緊急事態宣言の発令とその後の大阪府の休業要請に伴う大学の閉鎖は、もう数か月前の出来事とはいえ、いまだその余波は収まっていません。5月末の休業要請解除に伴って徐々に大学へは学生の入構規制を緩和しましたが、春夏学期中は原則メディア授業を続けました。幸い、大阪大学ではすでに十数年前から徐々にメディア授業を実施できる情報基盤環境が整備されておりましたので、当初予定の学年歴通り4月9日からメディア授業を開始することができました。しかしながら、メディア授業に慣れている教員は必ずしも多くなく、当初は混乱もありましたが、学生のほうがオンライン対応に慣れており、また昨年度から入学時のパソコンの必携化を進めていましたので、新入生

に対しては、高学年よりもオンライン化の影響はやや少なかったように思います。一方、関西圏外に実家のある新入生にとっては、不慣れな関西での生活を4月当初から緊急事態解除の5月末まで、連休中も含めて下宿での一人暮らしを強いられ、精神的に孤立感を深めた学生も多く、その救済が課題でした。また各種報道でも取り上げられた学生への経済支援も大きな課題でしたので、5月中に総額6億円規模の経済支援を留学生も含めて実施しました。本支援に関しましては、企業の皆様、卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様方からのご支援を頂きました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。5月下旬に緊急事態宣言が解除されたのち、6月以降は、孤立感の高かった新入生対象の懇談会行事をキャンパス内にて開催しました。例えば、6月15日から6月27日まで10日にわたって、440人収容の施設を利用して、連日100名の新入生を募り、夕方、交流会を開催しました。毎回西尾総長にもご参加いただき、新入生にとっては、初めて学友と言葉を交わすイベントとなりました。笑顔に溢れ、大学の中のほんの一部の光景とはいえ、大学らしい新学期が始まったと実感しました。ただし、漸く叶った6月後半での出来事です。しかしながら、その後夏学期中もキャンパス内の学生数は必ずしも多くなく、マスクの着用と教室内の人数制限は年内は続く予定であり、賑やかなキャンパス環境が平常に戻るには今しばらく時間がかかりそうです。

これらの緊急事態の中、上記メディア授業をはじめ、研究活動、教職員の職場環境において、今まで見えてこなかったものの、実は本質的に大切なものを見直すきっかけとなった事案も多数見出されたことは、コロナ新時代への新たな駆動力にもなりそうです。国内外を通じて言われている通り、テレワークの活用、会議の多くがオンラインでも可能であっ



* Toshihiro TANAKA

1957年4月生まれ
大阪大学 大学院工学研究科 冶金工学
専攻 (1985年)
現在、大阪大学 理事・副学長
工学博士 専門/界面制御工学
TEL : 06-6879-7504
FAX : 06-6879-7504
E-mail : tanaka@mat.eng.osaka-u.ac.jp

たこと、出張の軽減などは、大学においても大いに当てはまります。とはいえ、オンラインにて有効な議論ができるのは、互いに信頼関係のある人間関係があってからこそとも言え、対面での人間関係の構築の重要性が改めて認識される場合も多いと思います。学生には、コロナ感染予防やうつさないことが大切であることの指導などを徹底し、コロナ新時代への新たな舵きりを進めています。

昨今、若い世代が「コロナ世代」と呼ばれ、十分な環境の下での学修が不足していることを指摘されることもあります。大阪大学では、低学年では座学が中心なので現況はメディア授業の対象となりますが、高学年ではマン・ツー・マンに近い少人数教育がゼミや研究室教育においてなされ、一人一人の学修程度に併せた教育の質保証を維持しています。6月以降は、上述の通り新入生も含めて学生が徐々にキャンパスに戻ってきています。彼らは20歳前後にこの世界的規模の未曾有の緊急事態の影響を日常生活の中で真正面から受けていますが、その中でも、長期間にわたるメディア授業とそれに伴う多くの課題を日々こなし、コロナ対応にもしっかりとした意識をもって、逞しく生きていていると思います。例

年とは異なる厳しい環境での大学生生活の毎日を過ごしているとはいえ、キャンパスで出会う学生たちは、若い明るさを維持しています。学修が不十分で、また対面での学友関係が不足しているというネガティブな意味での「コロナ世代」とは決して言えない力強さを感じます。前述のように、オンライン対応は彼らにとっては以前から日常的であり、様々なメディアをコミュニケーションに活用できる能力を有しています。若い世代の潜在力を心から信じ、より一層大切に育てていきたいと思っています。今後は、将来コロナウイルスの影響が収まった後も、この非常事態において得た新たな経験を大いに活かして、対面式とメディア活用による授業を併用した「フレンド型教育」を大阪大学の標準とし、産学連携や研究活動、国際連携等を通じた特徴ある教育プログラムを随所に取り入れる計画です。複雑な課題が山積みの国際社会に向かって、それらの課題に果敢に挑戦し、未来を牽引する力強い若い世代が育つ環境整備をより一層進めてまいります。生産技術協会に関係する皆様方からも温かいご理解、ご支援を引き続き若い世代に注いでくださいますよう切にお願い申し上げます。

